



# ブリ

主な漁業と漁期

定置網:周年  
釣:周年

## 生態

日本各地に分布し、多くは沿岸域の水深30～100m層を泳ぎながら北海道～鹿児島県を広く回遊します。一方、あまり移動せず瀬に定着する瀬付きの群もあります。若齢魚は比較的狭い範囲を回遊しますが、高齢になるほど広がります。

### ●産卵場・産卵期

産卵場は東シナ海の陸棚縁辺部を中心として、九州～能登半島周辺以西および伊豆諸島以西の沿岸域です。産卵期は1月から始まり、太平洋側では5月頃まで、日本海側では7月頃までです。

### ●食性

肉食性で尾叉長8cmまでは動物プランクトン(甲殻類)を主に捕食しますが、その後は魚食性が強くなり、尾叉長13cm程度でほぼ完全な魚食性となります。成魚ではイワシ類、アジ類、イカ類、タイ類などを捕食します。

### ●成長・成熟

寿命は7歳程度とされています。流れ藻について生活する稚魚をもじゃこ、体重0.5kg未満をわかし、0.5～2.0kg未満をいなだ、2.0～6.0kg未満をわらさ、6kg以上をぶりと、魚体により呼称(銘柄)が変わります。3歳魚(わらさ～ぶり)では一部が、4歳以上(ぶり)で全てが成熟します。

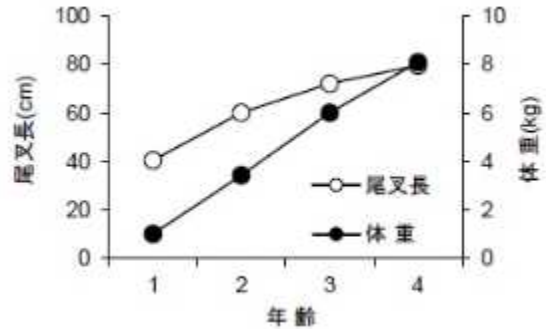
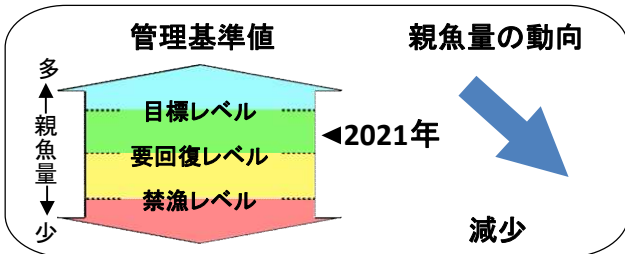


図 年齢と成長の関係

(引用元:令和4年度ブリの資源評価)

## 漁業・資源動向

### 【資源】



- 1 日本及び韓国のブリ類の漁獲量は2021年は10.9万トンと高水準で推移しています。
- 2 2021年の資源量は29.9万トンで、2010年以降の最低値となりました。親魚量は減少傾向にあります。
- 3 漁獲物の年齢組成は0,1歳魚を中心とする未成魚に大きく偏っていることから、未成魚に対する漁獲圧を下げる管理が望ましいと考えられています。

国の資源評価へのリンクはこちら  
簡易版

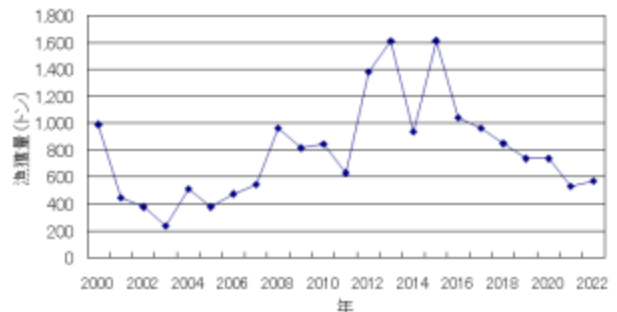
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/simple\\_2022\\_45.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/simple_2022_45.pdf)

詳細版

[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/details\\_2022\\_45-Buri.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/details_2022_45-Buri.pdf)

### 【漁業】

- 1 静岡県では主に定置網や釣りで漁獲されており、特に春(2～4月)に伊豆半島東岸で、ぶり、わらさが多く水揚げされます。
- 2 県内の漁獲量は、2003年以降増加に転じ、2015年には1,600トンの漁獲がありました。近年では減少傾向にあります。
- 3 伊豆半島東岸大型定置におけるブリの漁獲量は2015年に1,015トンと過去最高となったのをピークに、その後減少傾向となり、2022年は281トンとなっています。今後の漁況経過が注視されます。



本県のブリ類漁獲量の推移

担当者の一言: ほどよく脂の乗った春のぶりを刺身や塩焼きで御堪能下さい。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場 0558-22-0835